

愛川小田急多摩線延伸促進協議会だより

第3号

平成27年3月発行 発行／愛川小田急多摩線延伸促進協議会 編集／愛川町企画政策課

延伸の実現に向けて、要望活動を展開！

町田市の「小田急線延伸を促進させ最寄り駅を誘致する会」と「町田小山小田急多摩線延伸促進協議会」、相模原市の「小田急多摩線延伸促進協議会」、そして本協議会の4つの住民団体が合同で、平成27年2月3日から4日にかけて、小田急電鉄(株)、神奈川県、町田市、町田市議会、相模原市、相模原市議会に対して、それぞれ要望書を提出し、小田急多摩線延伸の早期実現に向けた取組みを進めていただくよう強く要望を行いました。

また、2月12日には、本協議会が単独で愛川町と愛川町議会に対して、要望活動を実施しました。これに対し、小野澤町長からは、「小田急多摩線延伸の早期実現のため、関係機関と連携し、積極的な取組みを鋭意進めていく」との回答をいただきました。今後も、関係する団体と連携しながら、要望活動を実施してまいります。



神奈川県への要望活動



愛川町への要望活動（意見交換の様子）

小田急多摩線延伸の早期実現に係る要望署名が国に提出されました

本協議会が、町民の皆様からお預かりした18,006人分の国に対する要望署名は、同じように町田市及び相模原市の住民団体が集めた署名と合わせて、合計176,271人分の署名として、平成27年3月9日、町田市、相模原市、愛川町の沿線自治体を代表して、相模原市長から国土交通大臣に、直接提出されました。延伸の実現に向けてご協力ありがとうございました。

相模原市・厚木市・愛川町・清川村による取組状況が公表されました

相模原市・厚木市・愛川町・清川村による「小田急多摩線の延伸促進に関する連絡会」において、平成27年度に予定される交通政策審議会答申にJR相模線上溝駅から愛川・厚木方面への延伸が位置付けられるよう、調査検討が進められており、平成26年10月に、これまでの取組状況が公表されました。



駅から愛川・厚木方面への延伸が位置付けられるよう、調査検討が進められており、平成26年10月に、これまでの取組状況が公表されました。

【検討ルート】本厚木駅に延伸するルートの検討を深めていくこととされました。

【期待される整備効果】移動時間の短縮、移動費用の縮減、乗換環境の向上、まちのにぎわいの創出、移動の安全性向上、代替経路確保の可能性

【今後の検討課題】人口減少社会の進行や事業性の観点からは、課題は大きいと見られ、今後、延伸の実現に向けて、「需要の確保」「事業費の圧縮」「沿線まちづくりの検討」「関係者との調整」といった課題の解決に取り組んでいくこととされました。

相模総合補給廠一部返還地の視察

平成26年9月末に日本政府に返還された相模総合補給廠の一部の土地(約17ha)の現地視察を行いました。

そのうち鉄道・道路用地として返還された約2haは、道路幅が26mで補給廠敷地との境にはフェンスが設置されていました。

今後、防衛省から財務省に財産が移管された後、財務省と相模原市で土地の処分について、調整していくようです。



中央部(鉄道・道路用地)、左右にフェンス

「愛川町と電車」作文コンテストが実施されました

協議会メンバー「愛甲商工会青年部」主催で、小学校5～6年生を対象に、「愛川町と電車」～愛川町に電車が来たら、どうなるのか考えてみよう～を題材とした作文を募集したところ、38人の応募がありました。みんながそれぞれに、電車の必要性や鉄道が通った時の活気あふれるまちの姿を書いてくれました。

愛川小田急多摩線延伸促進協議会の構成団体(43団体)

川北区、宮本区、原臼区、両向区、細野区、田代区、角田区、三増区、箕輪区、小沢区、上熊坂区、熊坂区、下谷八菅山区、二井坂区、桜台区、半縄区、坂本区、六倉区、大塚区、桜台団地区、春日台区、愛甲商工会、神奈川県内陸工業団地協同組合、愛川工業クラブ、大塚下団地工業会、(一財)繊維産業会、(公社)厚木法人会愛川支部、(一社)厚木青色申告会愛川地区会、愛川町商店会連合会、愛川町観光協会、愛川町食品衛生協会、(一社)愛川町建設業協会、KAA建築協会愛川、愛川管工事協会、愛川町電設協会、愛甲造園組合、愛川町自動車整備協会、愛川液化ガス協同組合、愛甲商工会青年部、愛甲商工会女性部、中津川漁業協同組合、(一社)神奈川県建築士事務所協会愛川支部、愛川町商業振興協同組合《順不同》